

2016 年度

中国派遣留学 帰国報告書

留学先：北京師範大学

留学期間：8月29日（月）～1月7日（土）

新潟国際情報大学
国際文化学科
学籍番号：21015038
五井 晃

目次

1	留学先及び期間	3
2	留学先概要	3
3	留学目的	3
4	留学内容	4
	4 - 1 留学のスケジュール	4
	4 - 2 留学の詳細	5
5	所感	7
6	おわりに	7
	謝辞	7

付録

	留学日誌	8
--	------	---

1 留学先及び期間

留学先：北京師範大学 漢語文化学院

期間：平成 28 年 8 月 29 日（月）～平成 29 年 1 月 7 日（土）

※帰国は 1 月 7 日（土）

2 留学先概要

(1) 大学について

北京師範大学は中国で最も早く創立した近代教育機関の一つである。中国政府に指定された重点大学の一つであり、15 の学院、12 の学部、12 の学術研究所を持つ総合大学である。留学生は毎年約 1,000 人を受け入れており、外国の留学生や研究者に対する中国語・中国文化の教育には優れた経験と実績がある。

本学留学制度の派遣先である歴史学部は、世界で著名な学者をはじめ歴史学分野で活躍している代表的な学者が多く、国家の人文社会科学の「人材育成基地」として中心的役割を果たしている。また北京師範大学は北京市の中心部に位置する大学であり、社会施設の利用、街や史跡の見学にも大変便利である。

(2) 大学で行われている教育について

お世話になる北京師範大学の漢語文化学院には、北京師範大学で約 4 年間漢語文化を学ぶ本科生と呼ばれる学生と、私たちのような短期留学や 1 年留学などの長期留学をする留学生がいる。留学生は自身の中国語能力によって約 7 つのクラスに配分されている。中国語の発音から学べる初級クラスや、会話レベルが高く中国人と同じようにまで成長することができる発展クラスがあり、定期的に行われるテストの成績次第では飛び級も可能である。授業項目はリーディング、スピーキング、リスニングなどの基礎授業、本学の留学生への特別授業として開講されている中日文化交流や太極拳といった文化項目もある。北京師範大学での成績は後に本学の単位へ換算される。

3 留学目的

私の今回の留学の目的は、第一に「外国語への挑戦」である。中国語は今では世界最大の話者数を誇る言語であり、近年の中国経済の成長にあいまって今後世界に与える影響は大きいであろう。また、本学では英語の授業を履修していても他の言語を専攻として学ぶことができる。よって留学先では中国語はもちろん、英語でもコミュニケーションをとることを目的とし、具体的には帰国後に HSK 五級、中国語検定と実用英語技能検定はともに二級以

上を目指し、TOEIC もスコアを確実に上げることを目指す。

第二に「異文化を体験すること」である。本学には留学をしても4年間で卒業できるというとても大きなメリットがあり、国際学部には英語を中心とする外国語学習と国際関係を学ぶという二本柱がある。本学でのこのプログラムを生かしつつ、私が大学生活で一番力を入れている国際交流インストラクターとして今後とも活動していくには、英語以外の言語を学ぶということは非常に意味があると考えた。現地では文字どおり全身で異文化の地に飛び込み、またいま社会で求められている「多文化に生きる」とはどういったことなのか、現地で出会う中国人や世界中から集まる留学生の方々と一緒に考え、学ぶことを目的とする。さらに、帰国後には国際交流インストラクターとしてワークショップの質の底上げ、県内の他大学と連携し、国際交流を目的とした新たな活動を始められるような留学生活を送る。

4 留学内容

以下から留学の内容を記述する。

留学期間中に行った活動の詳細は付録に記載する。

4 - 1 留学のスケジュール

留学期間中のスケジュールは以下のとおりである。※本学留学生全体の日程

月	日<曜日>	午前	午後	
8	29<月>		到着、入寮	
	30<火>	新入生登録		
	31<水>			
9	1<木>		クラス分けテスト	
	2<金>	入学式		
	3<土>		クラス発表	
	4<月>	テキスト購入		
	5<火>	授業開始		
	8<木>		中日交流会	
	10<土>		日本人会の新入生歓迎会	
	15<木>~18<日>	中秋節(休暇)		
	10	1<土>~10<月>	国慶節(休暇)	
11	3<木>	中間テスト		
	4<金>	中間テスト		
	5<土>~10<木>	就学旅行(2016年度は河南省へ)		
	13<日>	留学生文化交流会		
12	18<日>	北京の夜(留学生が自国の歌や踊りを披露する)		
	29<木>	期末テスト		
	30<金>	期末テスト	日本人会の忘年会	
1	7<土>	帰国		

4 - 2 留学の詳細

スケジュールに記載してある各項目の内容は以下のとおりである。

i) クラス分けテスト

新入生はリスニングと筆記、口頭のテストを受ける。テストの結果によって留学期間の授業クラスが決まる。必要以上に心配しなくていいが、**HSK**のような形式の問題なので対策をしていればよりいい。口頭は五分程度で、簡単な質問に答えるもの。しかし、クラス分け後に本学留学生のための特別授業の時間割が出るので、本学留学生は同じレベルのクラスに配分されることもある。

ii) 授業開始

授業内容はリーディング、スピーキング、リスニング、新聞を精読する授業、主に日本語で行われる中日文化交流、本場の太極拳を学べる授業の6種類。一日に行われる授業はこのうちから3つほどで、曜日によって異なるが平均して午後三時ごろには授業が終わる。

iii) 中日文化交流

北京師範大学には日本語学科があり、日本語を学んでいる学生がいる。彼らのほとんどは中国人で、留学生活の最初の友達になるだろう。北京市内の観光地に連れて行ってもらったりお互いの言語を教え合うランゲージパートナーになったりと、ここで出会う友達の存在は大きい。また、この交流会では出し物をするため、日本にいる間に本学留学生で何をするか計画し準備をする。

iv) 日本人会の新入生歓迎会

北京師範大学には本学留学生以外にも日本全国から留学生が来ている。そんな私たちの留学生生活を直接的に支えてくれるのが日本人会という団体だ。彼らは北京師範大学の日本人本科生で、私たちと同じく二十代前後。新入生歓迎会では留学生活の手続きの補助や、イベントの紹介をしてくれる。彼らを通じてたくさんの交流の場へ行き、たくさんの外国人と友達になることもできる。

v) 中秋節

日本でいうお月見の時期で、大学全体で四日間の休みになる。はじめてのまとまった休みになるので、身体休めに使っても買い物に出かけてもいいだろう。私は万里の長城へ行ったり、本学留学生全員で天安門や故宮などに出かけたり観光をした。

vi)国慶節

10月1日は中国の建国記念日であり、大学では十日間の休みとなる。国慶節は旅行に行く人が多く、私は内モンゴル三泊四日の旅に参加した。砂漠でラクダに乗ったり星空を眺めたりして過ごした。その期間中に仲良くなった友達が多い。また、日本人会で青龍峽へ行きロープウェイに乗ったり、友達と買い物をしたりと休みを満喫した。

vii)中間テスト

授業科目ごとにテストが行われる。この中間テストと期末テストの結果によって成績が出され、本学の単位へ換算される。内容は特別難しいような問題ではなく、教科書で習った内容の範囲内であり、授業担当の先生が出題範囲や形式も教えてくれた。

viii)研修旅行

毎年、中間テスト後は漢語文化学院全体で旅行に行く。希望性であるが、多くの留学生が参加する。今年は河南省へ行き、少林寺や歴史ある建物、本場の中国雑技を見学した。この研修旅行では授業のクラス単位で行動することが多いので、クラスの外国人とさらに仲良くなれるチャンスでもある。

ix)留学生文化交流会

留学生が自国の文化を紹介するブースを出し、交流をした。日本ブースではお好み焼きとチョコバナナをふるまい大人気だった。さらにここでは、12月に行われる「北京の夜」という文化祭で披露する、沖縄の伝統芸能のエイサーを前披露した。

x)北京の夜

今年度は約二十か国が参加し、自国の歌や踊りを発表した。本学留学生は希望性だが、日本人会としては毎年参加していて練習は二か月以上前から始める。練習にとられる時間は本番が近づくとつれ多く大変であるが、その分当日の感動は大きく、私は留学生活の一番の思い出となった。

xi)期末テスト

中間テストと同様な形で試験が行われる。しかし期末テストのほうが中間テストより全体の成績の配分が高いので十分な準備が必要。テスト終了後、卒業式を残しすべての日程が終了する。

5 当初目的・目標への達成度

今回の留学の目的の達成度について、それぞれまとめる。

i) 外国語への挑戦

留学当初は自分の中国語のレベルの低さを痛感し、授業の終わりや休日にも図書館にこもって勉強をした。その甲斐あって一か月を過ぎると授業中に先生が話している内容が聞き取れるようになり、二か月後は話せる内容も多くなった。帰国してからまだ前述の検定は受験できていないが、本学の来年度の中国語選択のクラス分けテストを受けた際の中国語検定三級の内容では、自信をもって回答することができた。

ii) 異文化を体験すること

留学中、何度も言葉の壁にぶつかった。そんな時は世界中からきている留学生のみんなと もっとちゃんとしゃべれたらどんなに楽しいだろうかと考え、自分自身でワクワクさせ、奮い立たせた。中国語がだめなら英語、それでも通じないなら全身を使ってボディランゲージ。異文化体験は言葉だけではない。自分がいま中国にいること自体すごいこと、すべてが異文化理解だと言いつつも何でも挑戦した。日本人ひとりの状況にいつでも駆け込み自分を追い込んだことで、「言葉の壁の向こう側」が少しずつ見えてきた気がする。そのようにして過ごすうちに会った友達は百を下らない。今後も繋がりを絶やさず大切にしていきたいと思う。

6 反省・課題

四か月ではあったが、これまでの人生でこれほど充実した日々はない。一番楽しかったこと、一番悔しかったこと、一番嬉しかったこと、その全ては中国で感じることもできたと思う。よく私は「留学は夢の時間」と言うのだが、この貴重な経験を夢で終わらせるつもりはさらさらしない。本学に帰ってきた今その「夢の時間」をいかに実現にしていけるのか、今後とも変わらず精進していきたい。

謝辞

今回、中国に留学するにあたってたくさんの方にお世話になりました。本学留学生の副班主任としていつも助け見守ってくれた何玲玲さん、いつも盛り上げ懸け橋となってくれた日本人会のみなさん、事前学習から手続き、一緒に中国まで同行していただき多くのことを学ばせていただいた本学の佐藤若菜先生、そして區先生、その他すべての関係者の皆様に深く感謝いたします。最後に、奨学金の授与をはじめ留学のサポートをしてくださった大学職員の皆様に心より感謝申し上げます。

付録：留学日誌

8月29日 月曜日 終日
出発 新潟駅に集合し、ジャンボタクシーで成田空港へ
備考 成田空港で佐藤若菜先生と合流
移動内容 ・成田空港から飛行機に二三時間乗り、北京首都国際空港へ。 ・空港で北京師範大学の日本人会と副班主任の何さんによる出迎え。 ・バスに乗り北京師範大学へ向かう。到着は午後十時ごろ。 ・その後、宿泊先である兰恵公寓へ入寮。

移動中の所感

空港に着いたとたん、中国の雰囲気圧倒された。現地での会話はほぼ聞き取れず、街中は漢字だらけ。赤や金の看板が街を照らしあの厳しくも力強く包み込んでくれる雰囲気に私は次第に惹かれていった。

9月8日 木曜日 夜
中日交流会
担当 何さんと北京師範大学の日本語学科のみなさん
活動内容 ・本学留学生と日本語学科のみなさんの混合グループを作り、自己紹介。 ・飲み物やおかしをいただき、温かい雰囲気。 ・日本語学科のみなさんの日本語レベルは非常に高く、日本語でも会話ができる。 ・お互いに準備した出し物を披露。

出し物の内容

本学学生は、イントロクイズや日本に関係のあるクイズを出したり、中国でも人気の高い SMAP の「世界に一つだけの花」を手話付きで中国語で歌ったりして盛り上げた。日本語学科のみなさんはダンスや歌を披露してくれ、非常に充実した時間を過ごせた。また、中国人の友達をつくる数少ない機会なので、連絡先を交換し、後日食事や観光に出かけた学生は多い。

9月15日 木曜日 終日
中秋節 水长城という万里の長城の有名な観光地へ
備考 個人ではなく、大学で案内があったツアーによる参加
<p>ツアー内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早朝、北京市の五道口に集合し、バスで水长城へ。 ・北京師範大学だけでなく、北京近くのたくさんの大学から日本人と中国人が参加。 ・北京師範大学以外の友達をつくれるいい機会。

ツアーでの所感

中国と行ったらやはり万里の長城が思い浮かぶ。別の機会にも万里の長城へ行くことができるが、チャンスは多くないので、迷ったら参加することをお勧めする。またこの日は天気も良く観光客も少なかったので、立ち止まって写真を撮ったりと存分に満喫することができた。

9月25日 日曜日 終日
観光地巡り 胡同、后海へ
主催 SAIN
<p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語学科の友達に誘われ、留学生交流団体 SAIN に参加する。 ・この日は、中国人、韓国人、ミャンマー人と私で観光地をまわった。 ・道中では中国の歴史や文化などを学び、たくさん会話することができた。

活動での所感

この SAIN という活動に参加してから、中国語を話す機会や出会いの場が増え、中国語の上達や異文化理解につながったと実感している。誘ってくれた友達には大変感謝しているし、SAIN を通じて出会った多くの友達にもあらためて礼を言いたい。

10月1日～4日 土曜日～火曜日
国慶節 内モンゴル旅行
主催 普华クリニック 他

大まかな旅行日程

一日目

- ・バスに乗り、八時間かけて北京から内モンゴルへ。
- ・草原にて乗馬体験。
- ・ゲルにて食事、その後キャンプファイヤーをし、星空を堪能。
- ・ゲルにて就寝。

二日目

- ・朝日を堪能する。
- ・砂漠に移動し、ラクダに乗る。ロープウェイや砂漠でのアトラクションで遊ぶ。
- ・他大学の日本人とも交流した。

三日目

- ・有名な寺院や仏像を見学する。
- ・漢字にまつわる博物館などを見学する。

四日目

- ・バスで北京市へ。
- ・帰宅。

内モンゴルでの所感

国慶節ということで十日間の休みだった。私はお世話になったクリニックの方の紹介で内モンゴル旅行に参加した。この四日間では人との出会いについて深く考えた。北京師範大学の日本人を含め、私は主に日本人のみと行動をしていた。傍から見るとなぜ中国に来てまで日本人といえるのだと言われそうだが、私は日本国内にも異文化はあるのだと知った。日本人といっても本学学生は私だけで、東京や千葉、大阪、広島、沖縄など日本全国からの集まった私たちの間には異文化があふれていた。方言や食べ物、観光場所などを話している時間はとても有意義で、相互理解は足元にあると学ぶことができた。もちろん第一に中国語を上達させるために留学をしているのは間違いないが、人生において大切な人との出会い、日本に帰った後もつながることができる日本人との出会いは異文化理解をはじめ、多くのことに共通する大事なことだと気づくことができた。

10月17日 月曜日 午後

見学地 北京 百年職校

備考 貧しく学校に行けない子供のために開校された、職業訓練所のような場所。

見学内容

- ・百年職校の施設見学。
- ・学校に通う生徒と交流、お互いに質問をし合った。
- ・見学後、北京市在住の社会人の方々と会食。

見学地での所感

本学の国際交流インストラクターとして、何かヒントがあるかもしれないと思い自ら申し込んで参加した。やはり本やネット、人が語るものではなく、自分の目で現状を見たかったし、自分の耳で声を聴きたかった。中国語にまだ全然自信がなかったので、質問の文章を紙に書き、それを見せながら思いを伝えた。彼らは片親を亡くしてたりと家庭事情が複雑なのにも関わらず、一切の淀みをも感じさせない透き通った表情をし、終始笑顔で接してくれた。趣味だって普通の子供たちと変わらず、音楽を聴くことや友達とおしゃべりすることが楽しみだと話してくれた。実際に彼らに会えたことは貴重な体験である。

10月20日 木曜日 午後

北京科技大学交流会

活動内容

- ・個人で申し込み、他大学の交流会へ参加した。
- ・友達を増やすと同時に、新たなランゲージパートナーもつくれる。
- ・交流会後は全体でごはんを食べに行った。

交流会に参加する目的

留学中は四か月間を充実させることだけに力を注いだ。そのため課題や予習をするのは日付をまたいだ後がほとんどである。できるだけ寮の部屋の外に出て刺激を浴びたかったので、交流会などには積極的に参加した。睡眠が大事なのは言うまでもないが、何かしらの目標を持つことは大事であると考えた。

10月22日 土曜日 午後

日中運動会

主催 日本人会

活動内容

- ・手ほどきゲーム、フラフープくぐり、けんけんりレー、借り物競争など。

活動での所感

日本人会が計画してくれた日中運動会に参加した。運動会は言葉の壁を取っ払ってコミュニケーションをとれるいい機会だ。全身を使って表現し、成功したらハイタッチ。馴れない中国語を使いながら笑顔で話しかければ、自然とこれだけで仲良くなれるものだと実感した。

10月23日 日曜日 午前
北京大学の文化祭
内容 ・内モンゴル旅行で知り合った友達に会いに、バスに乗って北京大学へ。 ・留学生による歌やダンスを鑑賞。 ・約六十か国の出店をまわり、スタンプラリーに参加した。

当日の所感

私はこの日、大げさに言えば世界の見方が一変したような体験をした。六十か国分ものブースをまわり、その国の留学生や中国人と会話してる時間は、まるで世界旅行をしているかのような気分だった。今までは外国や外国人に対して少し恐怖心をもっていたり自分と距離を置いていたりしたことも少なからずあったが、このスタンプラリーの際に勇気を出して声をかけた時、もう何年も前から知り合っている友達かのように会話することができ、最高の笑顔で私を受け入れてくれた。もちろんこれは文化祭で、彼らも仕事としての笑顔だったかも知れない。しかし、このようなイベントで少しでも私のように誰かが世界に対するイメージや気持ちを変えるきっかけになるのであれば、続けていく必要があるなと感じた。

10月29日 土曜日 夜
ハロウィンパーティー
主催 SAIN と日本人会
活動内容 ・仮装やメイクをし、ハロウィンパーティーに参加した。 ・中国人のグループに留学生が混じり、ミッションを解決していくもの。 ・その後、日本人会のメンバーでクラブに行き、ハロウィンを楽しんだ。

活動の所感

中国では基本的にハロウィンを祝う風習はないが、若者や大学内では大きなイベントである。この日も SAIN の活動に参加して交流を楽しんだ。しかし、中国人グループに私一人という状況は初めてで、会話についていけなかった。交流会では中国語を話せるチャンスだが、今回は失敗したり自信を無くしたりするということも経験した。

11月5日～10日 土曜日～木曜日
研修旅行 河南省へ
参加者 北京師範大学漢語文化学院の学生と留学生（希望性）
<p>主な研修日程</p> <p>一日目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢語文化学院の何百人という学生が10台以上のバスに乗り込み、河南省に向かう。 ・移動初日は寝台列車にて就寝。 <p>二日目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二日目以降はホテルに泊まるので、食事は毎回豪華で美味しい。 ・小吃街という食べ歩きができる場所などでも食事をする。 ・少林寺を見学、本場の少林寺拳法を観る。 <p>三日目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字にまつわる博物館へ行く。 ・中国の小学校を訪問する。 ・中国雑技を見学。 <p>四日目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精肉の工場を見学。 ・夜はバーベキューやキャンプファイヤーをする。 <p>五日目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体で集合写真を撮る。 <p>六日目</p> <p>漢字の歴史を体験する博物館へ。</p> <p>帰宅。</p>

活動での所感

北京師範大学はこのような研修旅行を毎年行っていて、お金も負担してくれるのでかなり自費は安くなる。泊まるホテルは星のつく豪華な部屋で、毎回の食事はバイキング形式や中国式の豪華な料理。普段は決して行けないような観光地もたくさん回れるし、何より世界中からの留学生と一日中ずっと一緒に過ごせるので語学力も成長できるだろう。これほど至れり尽くせりな日々は初めてだった。しかし、やはり24時間外国人として、中国語でずっと会話していたこの期間での会話力や自信は今まで以上に成長

を感じることができた。北京師範大学をはじめ、留学を支えてくれている皆様に感謝を忘れずにいたい。

11月24日 木曜日 午後
ボランティア活動と日本語サロン
主催 SAIN
活動内容 ボランティア活動 ・SAINのメンバーとともに留学生が小物を売り、そのお金は寄付する。 ・食堂や街頭などで呼びかけを行った。 日本語サロン ・日本に興味をもつ中国人のために、日本を紹介するプレゼンを行った。 ・その他にクイズ、着物の試着、福笑いなどの遊びを紹介した。

具体的内容および所感

この日も SAIN のメンバーに誘われ活動を共にした。ボランティア活動では商品を買ってくれた人に日本語でメッセージを書いたりカイロをプレゼントした。日本や中国、世界でも変わらずに存在するボランティアという活動を経験した。

日本語サロンでは、50人ほどの中国人が見つめる中、私は日本の紹介を主に新潟の食を絡めてプレゼンをした。時間を削りプレゼンするメンバーで集まり、何度もプランを練って挑んだ。時には朝方までスライドを作りながら、少しでもきれいで美味しそうな写真を探してみたり、中国語の原稿を直したりしていた。体力的に厳しい日が続いたが、またとない中国で新潟のことを発信できる機会だったので一生懸命に準備した。お米や B 級グルメなどを紹介した私のプレゼンも成功し、楽しそうに活動している中国人を見て達成感も大きかった。

この二つの活動はどちらも希望性だったが、この時点で知り合いはかなり多くなりアピールの場も多かったので、日本に少しでも興味をもってもらえたら、好きになってもらえたらと考えていた。実際はじめて出会った国の人などは、その人のイメージがその国のイメージになることも多いと感じていたので、そのあたりも意識して生活をしていった。

11月27日 日曜日 午前
ギョーザ作り教室

主催 普华クリニックの史さん

活動内容

- ・ギョーザ作りを体験するため、韓国人の友達と参加する。
- ・他大学の留学生を含めた数人で、中国人に作り方を教わる。
- ・生地を練るところから本格的に教わり、完成したギョーザはその場で茹でる。
- ・その他おかずも用意してくれ、参加者でギョーザパーティをした。

活動での所感

本場中国の水餃子をぜひ自分で作って食べてみたいと思い、友達を誘って参加した。留学中に何度か餃子作りのイベントがあるので参加をお勧めする。私はこの日とは別に中国人の友達の家に招かれ、再び餃子作りをすることになるのだが、やはり文化は自ら触れてこそだと思う。実際に自分の五感で体験せずに、本で見たことや人の話をそのまま鵜呑みにするのではせっかく留学に来ているのにもったいないと感じた。ココでしか学べないことを留学中はぜひ体験してほしい。

12月18日 日曜日 終日

「北京の夜」留学生が自国の歌や踊りを披露する文化祭のようなもの

活動内容

- ・今年度は約二十か国もの留学生が参加した。
- ・ステージは大きく観客も何百人、北京師範大学の職員らも見学している。
- ・日本チームは約二か月以上前から練習をはじめ、本番は堂々と披露できた。
- ・当日はかなり盛り上がり、留学生には忘れられない思い出となる。
- ・日本人会での打ち上げもある。

具体的内容および所感

私はこの日が「人生で一番かもしれない最高な一日」となった。「北京の夜」というイベントは留学の最初、日本人会の新入生歓迎会で知った。私自身がダンス好きで祭り好きなため、去年の映像を見た時には鳥肌が立つほど感激し、「これは絶対にやろう！このために中国に来たんだ！」と意気込み、練習はいつも楽しみ全力で参加した。今年度日本チームは30人ほど参加していて、その人数で大きなものを作っているため、途中はうまくいかないことやぶつかることも少なくなかった。私もただのイチ留学生だが、代表メンバーに意見を言い、想いを伝え続けた。当日では私たち自身が一番自分たちの成功に感動し、喜びや嬉しさを分かち合った。そのような過程を経ているうちに、私はこの「北京の夜」に参加するメンバーが高校の部活のような存在だと思えてきた。活動

を共にしたのはたったの二三か月だが、高校の部活で味わうようなあの仲間感というのか、お互いの存在が非常に尊くなる瞬間を体験できた気がする。国境や言葉、お互いの文化を完全に越えてひとつになれた参加留学生全体での大合唱「We Are The World」は、感動という言葉では言い表せないが、一生の思い出となる出来事だった。その日は自分でも信じられないほど涙があふれた。

12月24日 土曜日 夜
SAINのメンバーとクリスマス会
<p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欧米人の中には年で最も祝うべき大切な日でもあるクリスマスは、大学内外で賑わう。 ・欧米人の部屋ではツリーを飾ったりと盛大に祝う友達もいた。 ・私はSAINのメンバーとイルミネーションを見に行き、食事をして楽しんだ。

活動での所感

同じクリスマスというイベントでも、祝う人によって形が変わるということに気づいた。当たり前なことかもしれないが、人の主観というのはそれぞれであり、その国の風土やその人が育ってきた環境によって違うので、全く同じ考え方という人はいないだろう。異文化理解という出発点には、人はそれぞれであり多様性を認めることができるかということだと考えた。当たり前だと思うことは当たり前ではない、常識とは何なのかと考え、まずはお互いを知り合うことが大切であると学んだ。

1月1日 日曜日 早朝
初日の出 万里の長城へ
主催 日本人会
<p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早朝バスに乗り、マイナス10度の中、八達岭という山にある万里の長城へ。 ・ご来光を拝むため、極寒の中歩みを進める。 ・途中で景色が見渡せる場所で待機、その後ご来光を見る。

活動での所感

1月1日に初日の出を見に行くというなんとも日本人らしいことをしていたが、やはりこの時間帯に日本人とはたくさんすれ違った。しかし、欧米の人などは31日の日の入りを見に万里の長城に来ていたらしく、ここでも文化の違いに遭遇した。新年を迎える

にふさわしい一日となった。

1月7日 土曜日 朝
帰国
行程 ・寮から空港まで北京師範大学がバスを用意してくれる。 ・早朝にも関わらず多くの人がお見送りに来てくれた。 ・今年度は日本人会の方が空港までついてきてくれ、搭乗まで見守ってくれた。

帰国時の所感

別れ際には皆が涙した。しかしその涙は紛れもなくうれし涙であり、決して後悔や悲しくて泣いているのではない。四か月間の互いの頑張りを讃えあい、これで終わりではないぞと、これからもみんなと一緒に成長していこうという誓いであった。

日本に向けて飛び立つ頃、その表情はどれも充実感と疲労で晴れ晴れしていた。







